



1年学年だより

発行日:令和8年5月29日(金)

発行者:横浜市立南高等学校附属中学校

学校長:二上 直子 NO. 2



平和への祈りを込めて

副校長 本江 聡美

昼休みに放課後にと、校内に歌声が響きわたる季節となりました。6月11日の合唱コンクールがとても楽しみです。申し遅れましたが、今年度も副校長を務めます本江(ほんごう)です。3年目となります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、5月29日は横浜大空襲のあった日です。幕末の開港以降、貿易や重工業(鉄鋼や造船など)が盛んとなり発展した横浜。2万人を超える犠牲者が出た1923年9月の関東大震災からようやく復興し、人口100万人を超える都市となっていた街が再び火に包まれました。

1945年5月29日未明、太平洋のマリアナ諸島の基地を発進したB29爆撃機の編隊517機は、午前9時20分ごろに横浜上空へ。午前10時30分までのたった1時間ほどの間に、総数43万8,576個(2569トン)の大量の焼夷弾が、投下されました。この焼夷弾は小型のクラスター爆弾で、密集した木造家屋を焼き払うのに適した攻撃でした。雲一つない快晴の青空が一変、瞬く間にあたり一面は黒煙に覆われ、真っ暗に。降り注ぐ焼夷弾で横浜の市街地に一気に火災が広がり、中区・南区・西区・神奈川区を中心に炎に飲み込まれました。ある方の体験談によると、編隊のようすは「西の空一面を覆いつくす黒い塊」に見え、「街全体から黒に近い灰色の煙があがり、狂った竜が暴れまわっているよう」だったといいます。

住民だけでなく、通勤や通学途中の人々が逃げ惑う大混乱となりました。京急の黄金町駅では、上下線の電車がちょうど到着したときに空襲警報が発令されたため、乗客が地域の人と一緒に高架線下(鉄筋コンクリートだったので安全と思われたそうです)に避難していました。そこへ焼夷弾数発が命中し、ホームから地上に向かって火砕流が発生したそうです。駅周辺には焼死体が積み重なり、逃げてきた人は熱いからと遺体の下に逃げ込み、さらに積み重なっていったといいます。大岡川も多くの人が飛び込み、遺体が重なるようになったことでさらに死者が出たそうです。「まるで地獄そのものだった。」「私はあれ以上の地獄を知らない。」との証言もありました。

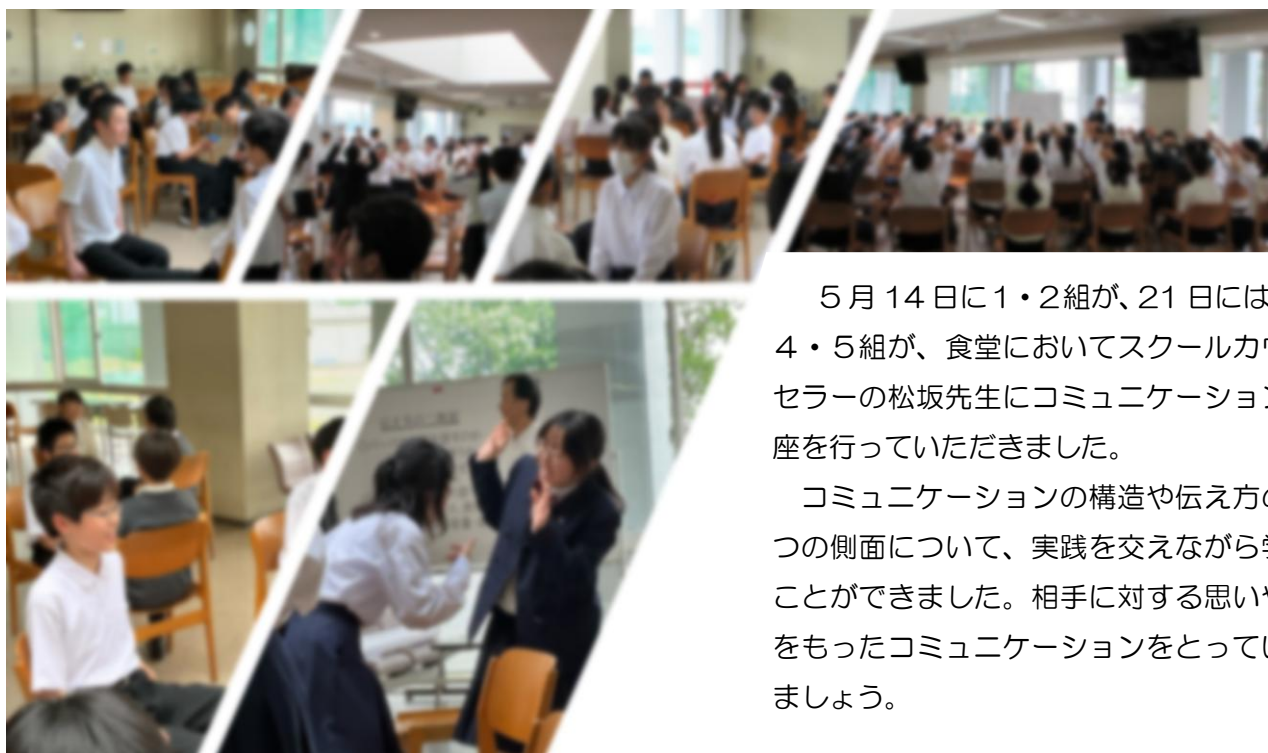
直後の公式発表によると死者は3,650人とされましたが、住民以外の犠牲者も多かったため実際には8,000人以上になるともいわれています。当時の横浜市の34%が焼け野原となり、人口の3分の1が被災したそうです。

戦後81年。第二次世界大戦を実体験として語れる方はどんどん少なくなっています。一方、戦争や紛争を体験している人は今も世界中で増えています。私たちには何ができるでしょうか。戦争の記憶を共有・継承し、未来に生かしていくことで、平和が一日でも長く続くように、世界中に広がっていくように、そして私たちがその一助となれるようにしていきたいですね。



横浜市HPより(横浜の市街地に降り注ぐ焼夷弾)

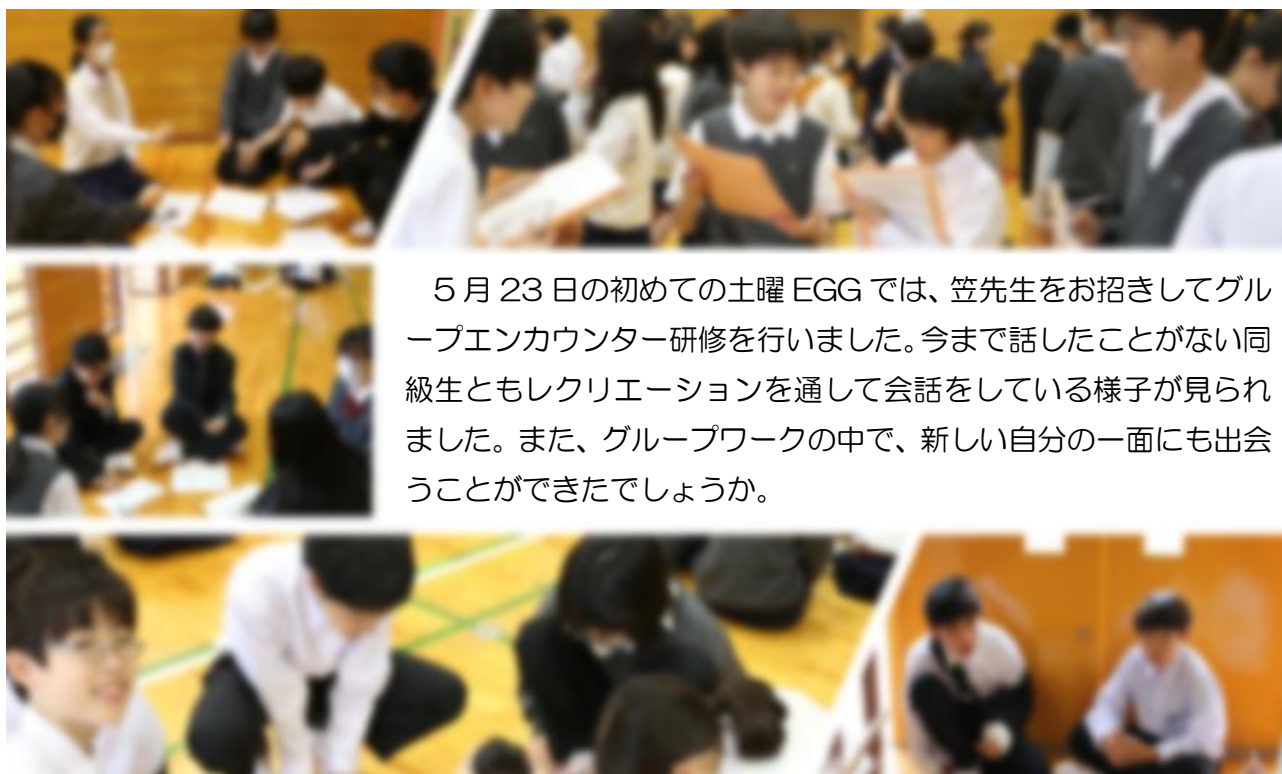
5月14日、21日 コミュニケーション講座



5月14日に1・2組が、21日には3・4・5組が、食堂においてスクールカウンセラーの松坂先生にコミュニケーション講座を行っていただきました。

コミュニケーションの構造や伝え方の2つの側面について、実践を交えながら学ぶことができました。相手に対する思いやりをもったコミュニケーションをとっていきましょう。

5月23日土曜 EGG 構成的グループエンカウンター研修



5月23日の初めての土曜 EGG では、笠先生をお招きしてグループエンカウンター研修を行いました。今まで話したことがない同級生ともレクリエーションを通して会話をしている様子が見られました。また、グループワークの中で、新しい自分の一面にも出会うことができたでしょうか。

EGG の Class テーマが決まりました。

1 組	身近な生活問題
2 組	私たちにもできること
3 組	人と人の交流
4 組	横浜市
5 組	SDG s

この後は、個人テーマを設定し、調査を進めていきます。
調査した内容をまとめて、9月の南高祭展示の部でクラスごとに展示をします。南高祭の後は少人数グループをつくり、関係機関や企業などにインタビューをしたり、アンケートをとったりします。保護者の方にもお手伝いをしていただく場合があります。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



合唱コンクールに向けて

指揮者・伴奏者に意気込みを聞きました！

校歌 『160人の校歌を全力で導きます』 指揮 2組：

校歌の指揮者を務めます。 です。私は入学式で初めて校歌をきいた際、音程やリズムから楽しく、陽気な曲だと思いました。さらに国語の授業で歌詞の読み取りをしたときに、この校歌は私たち南高・南高附属中生たちの『人生』という深い意味が込められていると考えました。

指揮は、ピアノや歌う人たちをひとつにまとめるとても重要な役割です。15期の人生に素敵な思い出が刻まれ、聴いてくれた方が笑顔になれるよう、心を込めて指揮を振ります！

校歌 『心をひとつに 最高のステージを』 伴奏 3組：

校歌の伴奏をする です。みんなの歌声を最大限引き出せるようなピアノを弾くことが目標です。練習の中でみんなと少しずつ息を合わせて、心をひとつにしていきたいです。本番はみんなが安心して100%の力が出せるように、伴奏で支えます。聴いている人の心に響く、最高のステージを目指して、これから一緒にがんばりましょう。一音一音に気持ちを込めて、最後まで全力で弾ききります。

「空は今」『熱意をみんなと共有したい』 指揮 1組：

合唱コンクールで「空は今」の指揮をやらせていただくことになりました。 です。指揮者として、159名を引っばっていけるように、責任をもち、一生懸命がんばります。

私は合唱曲が「空は今」に決まるまで、その曲の存在を知りませんでした。ですが、指揮者に立候補して、指揮の練習を始めてから、この曲がすごく好きになりました。この気持ちを159名の皆さんにも味わってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

「空は今」『心に残る合唱づくりを』 伴奏 1組：

「空は今」の伴奏の です。オーディションを通して、学年合唱の伴奏という大役を任せてもらうことになりました。合唱コンクール当日まで、学年のみんなとしっかり練習を重ね、本番で良い合唱をつくれるように全力で努力したいです。

「空は今」の穏やかでやさしく、けれど、強い希望をもった歌声を、伴奏で支えられるように練習します。聴いた人の心に残る、そんな合唱にしていきたいです。よろしくお願いします。